

T2

INTELLIGENT DIGITAL DISK RECORDER

User Manual –外部制御編–



15 October, 2009



ご注意

- (1)本製品の一部または全部を無断で複製することを禁止します。
- (2)本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
- (3)本製品は内容について万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がございましたら、当社までご連絡ください。
- (4)運用した結果については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
- (5)ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。
- (6)本製品付属のソフトウェア、ハードウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアセンブリを禁じます。
- (7)Microsoft、Windows は米国マイクロソフト・コーポレーションの登録商標です。
- (8)DVCPRO HD は、パナソニック株式会社の商標です。
- (9)HDV および、HDV ロゴはソニー株式会社と日本ビクター株式会社の商標です。
- (10)その他、商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。



表記について

- 本書で使用している画像は開発中のものであり、実際の製品とは異なる場合があります。
- 本書での説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
- 本書はパソコンの基本的な操作を行うことができる方を対象に書かれています。特に記載の無い操作については、一般的なパソコンの操作と同様に行ってください。
- 本書では、T2 のシステムを意味する場合、ワークステーションと表記します。



警告



●健康上のご注意

ごくまれに、コンピュータのモニタに表示される強い光の刺激や点滅によって、一時的にてんかん・意識の喪失などが引き起こされる場合があります。こうした経験をこれまでにされたことがない方でも、それが起こる体質をもっていることも考えられます。こうした経験をお持ちの方や、経験をお持ちの方の血縁にあたられる方は、本製品を使用される前に必ず医師と相談してください。

T2
User Manual —外部制御編—
October 15, 2009
Copyright © 2009 Thomson Canopus Co., Ltd.
All rights reserved.

Remote Control

概要

T2外部制御では以下の制御や処理が行えます。

- T2 リアパネルの REMOTE RS422 端子入力により、デバイスとしてコマンドを受け付けることができます。
- T2 リアパネルの REMOTE RS422 端子出力により、外部デバイスを制御することができます。
- Ethernet 入力により、デバイスとしてコマンドを受け付けることができます。
- Ethernet 出力により、外部デバイスを制御することができます。
- BVW プロトコル（一部）に対応しています。（RS422 のみ）
- AMP プロトコル（一部）に対応しています。（Ethernet のみ）
- GPI 入力により、対応する処理を行えます。
- Playlist の Event の設定に従い GPI 出力処理を行えます。

機能

1 R1-VTRモード

- コントローラ（マスター）として、外部デバイス（VTR）を制御します。
- In-Out 点指定 Rec が指示されると、指定のタイムコード間のキャプチャのための VTR 制御を行います。

2 P1、P2-Remoteモード

デバイス（スレーブ）として、外部コントローラからのコマンドを受け付けます。

2-1 BVW

BVW対応コマンド

COMMAND			RETURN			
00	11	DEVICE TYPE REQUEST	12	11	DEVICE TYPE RETURN	○
20	01	PLAY				○
20	04	STANDBY OFF				○
20	05	STANDBY ON				○
20	10	FAST FWD				○
2X	11	JOG FWD				○
2X	12	VAR FWD				○
2X	13	SHUTTLE FWD				○
2X	20	REWIND				○
2X	21	JOG REV				○
2X	22	VAR REV				○
2X	23	SHUTTLE REV				○
24	31	CUE UP WITH DATA				○
20	54	ANTI-CLOG TIMER DISABLE				△
20	55	ANTI-CLOG TIMER ENABLE				△
44	00	TIMER-1 PRESET				○
40	08	TIMER-1 RESET				○
41	36	TIMER MODE SELECT				○
61	0C	CURRENT TIME SENSE	74	00	TIMER-1 DATA	○
			74	04	LTC TIME DATA	○
			78	04	LTC TIME & UB DATA	○
			74	05	LTC UB DATA	○
			74	06	VITC TIME DATA	○
			78	06	VITC TIME & UB DATA	○
			74	07	VITC UB DATA	○
			70	0D	REQUEST TIME MISSING	○
61	20	STATUS SENSE	7X	20	STATUS DATA	○
60	2E	COMMAND SPEED SENSE	71	2E	COMMAND SPEED DATA	○
60	36	TIMER MODE SENSE	71	36	TIMER MODE DATA	○

表中に示される各種マークは、次のような内容を意味します。

- 印のコマンドは、該当オプション動作時にDEVICEとして対応可能であり、RETURNの欄に記載があれば、そのRETURN + DATAを、また記載がなければ10 01 ACKを返す。
- △印のコマンドは、ACKまたはSTATUSをRETURNとして返すが、実際の動作は行われない。
- Start Delay値 = 0F

2-2 AMP

AMP対応コマンド

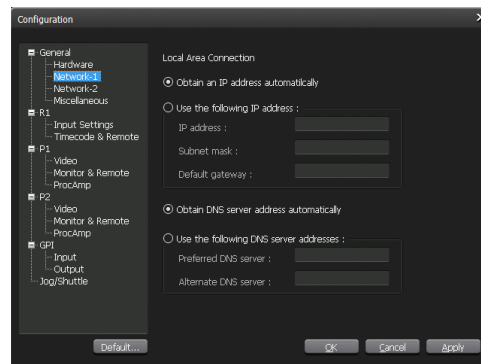
COMMAND	
20.00	Stop
20.01	Play
20.10	Fast Forward
21.13	Shuttle Forward <Pause(0x)のみ対応>
24.11	Jog Forward
20.20	Rewind
24.21	Jog Reverse
22.22	Variable Reverse <逆再生 (-1x)のみ対応>
4A.14	In Preset <1つのClip(Playlist)のLoadのみ対応>
4A.15	Out Preset <ACKを返すだけで実際の動作は行わない>
40.41	Auto Mode On <ACKを返すだけで実際の動作は行わない>
41.42	Set Loop Playback Mode
61.0C	Current Time Sense
61.20	Status Sense
A0.16	ID Loaded Request
A2.09	Get Thumbnail
A2.0E	Set Working Folder
A0.0F	Get Working Folder
A2.14	List First ID
A1.15	List Next ID
A2.17	ID Duration Request
A2.25	ID Start Time Request
A0.2A	List First Folder
A0.2B	List Next Folder

AMPの設定方法

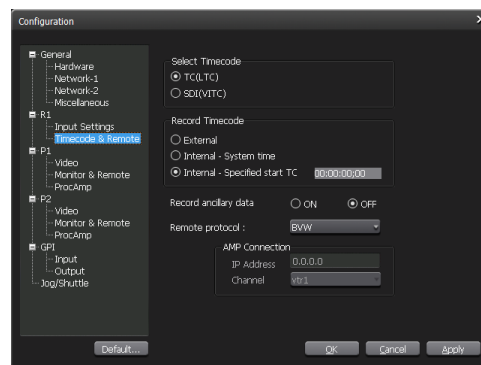
AMP対応コマンドを使用する場合はあらかじめ以下のネットワーク設定を確認してください。

※当手順はワークステーションモードでの使用時を例に説明します。

- 1 T2のConfigボタンを押し、General→Network1/2設定画面内でT2自体のIPアドレスを設定します。



- 2 T2のConfigボタンを押し、R1→Timecode & Remote設定画面内で接続先のIPアドレスを設定します。



3 GPI入力

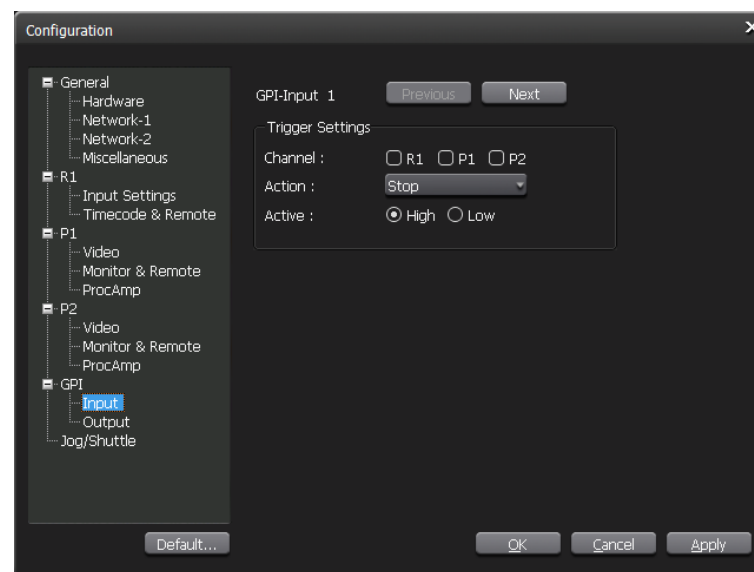
- GPI入力端子（6ピン）により、T2の制御を行うことができます。

入力に関する設定はConfigボタンを押すことで表示されるシステム設定画面→GPI入力設定画面で行います。

※当手順はワークステーションモードでの使用時を例に説明します。

GPI入力設定画面設定内容

※詳細については『T2 User Manual－ワークステーションモード編－』を参照してください。



- トリガ channel（R1, P1, P2）：複数同時選択可能
- Trigger Action
 - play
 - stop
 - record
 - rewind
 - ff
 - cue start/end
 - eject
 - preview
 - cue next/prev event
 - VAR playback

- Active
 - High
 - Low

※入力トリガに応じた動作ができない（ロードされていないなど）場合は、何もしません。

※GUIの動作モード（Remote/Local）、Lock状態に関わらず、GPI入力を受け付けられます。

4 GPI出力

- GPI出力端子（6ピン）により、T2の動作に応じたトリガ出力を行うことができます。

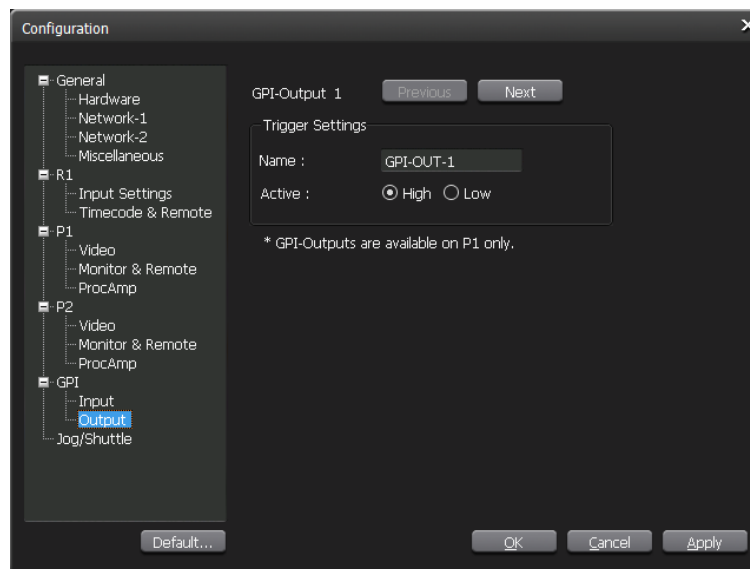
出力のピンに関する設定はConfigボタンを押すことで表示されるシステム設定画面→GPI出力設定画面で、トリガ出力に関する設定はイベントリスト上で右クリック→propertiesで表示されるプロパティ画面のGPIタブ画面で行います。

※当手順はワークステーションモードでの使用時を例に説明します。

※GPI出力はP1にロードされたものからのみ出力されます。

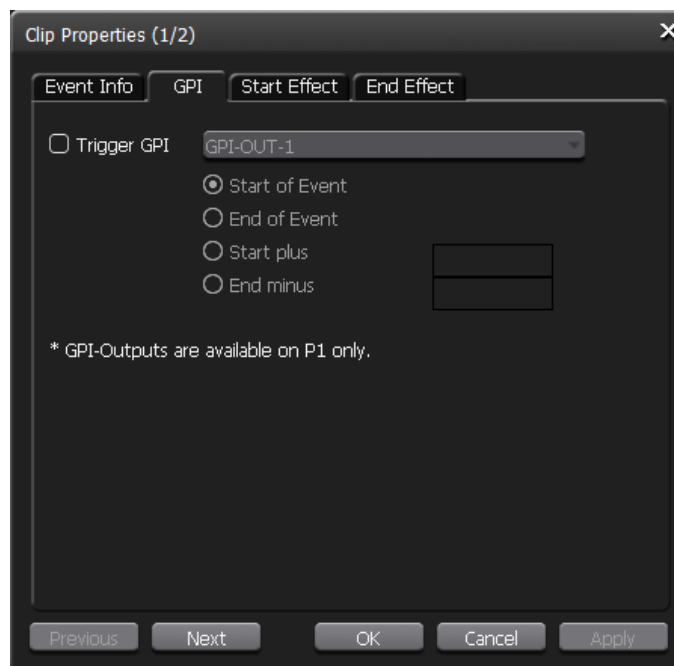
GPI出力設定画面設定内容

※詳細については『T2 User Manual－ワークステーションモード編－』を参照してください。

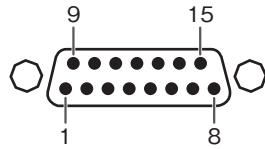


- Name
- Active
 - High
 - Low

GPIタブ画面



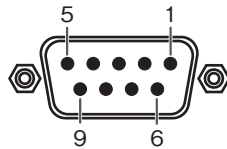
GPI 入出力ピン



Pin	Signal	Pin	Signal
1	Output 1	9	Input 1
2	Output 2	10	Input 2
3	Output 3	11	Input 3
4	Output 4	12	Input 4
5	Output 5	13	Input 5
6	Output 6	14	Input 6
7	NC	15	NC
8	共通 Ground	SHELL	共通 Ground

注意 T2は、Output 1-6およびInput 1-6のみに対応しています。Pin 7およびPin 15は使用しません。

RS422入出力ピン



R1 D-Sub 9pin		P1/P2 D-Sub 9pin	
Pin	Signal	Pin	Signal
1	GND	1	GND
2	RECEIVE-	2	TRANSMIT-
3	TRANSMIT+	3	RECEIVE+
4	GND	4	GND
5	NC	5	NC
6	GND	6	GND
7	RECEIVE+	7	TRANSMIT+
8	TRANSMIT-	8	RECEIVE-
9	GND	9	GND